

令和4年度 掛川社会福祉事業会 事業報告書

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、養護老人ホームききょう荘及び特別養護老人ホームかけがわ苑においても感染クラスターの発生に至り、事業活動への影響が様々な場面で生じました。病院等における病床逼迫化の情勢により、罹患された入所者は施設内療養を余儀なくされましたが、幸い重篤化の容態には至らず、快方に向かう事ができました。コロナ感染は、職員の各家庭においてもそれぞれの感染経路で蔓延し、罹患者、濃厚接触者等に対する外出療養制限が敷かれる中、日々の職員体制を維持することの難しさにも直面しました。感染拡大の防止と事業継続に際しては、事業継続計画（BCP）に沿って対応をして参りましたが、建物構造、設備、職員数の限界にも直面し、従事した職員には時間外労働の常態化等による相当の疲弊が見られました。

また、令和4年2月のロシアのウクライナ侵攻より世界情勢も一挙に不安定化し、エネルギーや生活物資の不足から物価高騰の煽りを受け、事業活動経費の上昇は免れませんでした。

このような不安定な状況の中ではありましたが、かけがわ苑では、新たに就任した施設長のもと、早期の混乱回避に向け、職員が一丸となつての対応を図ったほか、ききょう荘でも施設長を中心に、職員の理解、協力のもと、事業活動を進めて参りました。

法人事務事業につきましては、諸規程に関して、運用実態を精査した上で必要な修正を行い、ガバナンスの徹底を目指しました。

職員処遇の関係では、介護保険事業における介護職員の処遇改善のために、新たに追加されましたベースアップ加算の取り扱いについて、これまでの介護職員処遇改善施策によって生じた、職種間の賃金格差の課題を拡大することのないよう、慎重に議論を進め、全職種均等に、制度目的に沿って基本給に組み入れる方策を実施しました。

法人を挙げて取り組むべき課題に対しましては、人材確保、育成・定着、地域貢献及び新たに創設した事業内部監査委員会にて活動を進め、それぞれ具体的取組を展開して参りました。

なお、法人事務事業実施状況は下記の通りです。

(1) 評議員会の開催

◇令和4年6月20日（第1回定時評議員会）

議案第1号	令和3年度掛川社会福祉事業会計算書類及び財産目録の承認について
報告第1号	令和3年度掛川社会福祉事業会事業報告について
報告第2号	監事監査報告について
報告第3号	社会福祉充実残額について

◇令和4年12月22日（第2回評議員会）

議案第1号	令和4年度掛川社会福祉事業会補正予算について
-------	------------------------

◇令和5年3月27日（第3回評議員会）

- 議案第1号 令和3年度掛川社会福祉事業会補正予算について
- 議案第2号 令和4年度事業計画について
- 議案第3号 令和4年度掛川社会福祉事業会予算について

(2) 理事会の開催

◇令和4年6月1日（第1回理事会）

- 議案第1号 令和3年度事業報告（案）について
- 議案第2号 令和3年度掛川社会福祉事業会決算及び財産目録（案）について
- 議案第3号 定時評議員会の招集日程及び提出議案について
- 議案第4号 評議員選任・解任委員の選任について
- 報告第1号 理事長業務執行報告（3月～5月）

◇令和4年9月28日（第2回理事会）

- 報告第1号 理事長業務執行報告（6月～8月）

◇令和4年12月14日（第3回理事会）

- 議案第1号 特別養護老人ホームかけがわ苑各所修繕工事について
- 議案第2号 令和4年度かけがわ苑拠点区分積立金について
- 議案第3号 令和4年度掛川社会福祉事業会第一次補正予算案について
- 議案第4号 規程の一部改正案について
- 議案第5号 第2回評議員会の招集日程及び提出議案について
- 報告第1号 中期監査報告
- 報告第2号 理事長業務執行報告（9月～11月）

◇令和5年2月15日（第4回理事会）

- 議案第1号 第3回評議員会の招集日程及び提出議案の承認について
- 議案第2号 令和5年度事業計画及び予算案の策定、方向性と概要について

◇令和5年3月14日（第5回理事会）

- 議案第1号 令和4年度かけがわ苑拠点区分積立金の取崩しについて
- 議案第2号 令和4年度かけがわ苑拠点区分拠点区分間の繰り入れについて
- 議案第3号 令和4年度掛川社会福祉事業会第二次補正予算案について
- 議案第4号 令和5年度特別養護老人ホームかけがわ苑照明器具の更新工事について
- 議案第5号 令和5年度かけがわ苑拠点区分積立金の取崩について
- 議案第6号 令和5年度かけがわ苑拠点区分拠点区分間の繰り入れについて

- 議案第 7 号 令和 5 年度ききょう荘拠点区分前期支払資金残高の本部拠点区分への繰入について
- 議案第 8 号 令和 5 年度事業計画案について
- 議案第 9 号 令和 5 年度掛川社会福祉事業会予算案について
- 議案第 10 号 規程の一部改正について
- 報告第 1 号 理事長業務執行報告（12 月～2 月）

(3) 監事による監査の実施

- 決算監査（経理監査・業務監査） 令和 4 年 5 月 30 日 実施
- 期中監査（経理監査・業務監査） 令和 4 年 10 月 27 日 実施
- 社会福祉法人の事務事業の執行状況と経理・財産の状況について、監事による監査を実施し事業の適正を期しました。

(4) 掛川市による社会福祉法人監査

令和 4 年度における受審実績なし

(5) 登記関係

資産の変更登記 令和 4 年 6 月 20 日 (790,180,043 円)

(6) 建設資金等借入金償還関係

施設建設等資金としての島田掛川信用金庫からの借入及び償還状況は資料 1（参照）の通り。

(7) 寄付金等の受入状況

現金 522,796 円

(8) 職員の動向（年間）

正規職員新規採用者数	正規職員退職者数	非常勤職員新規採用者数	非常勤職員退職者数
2 人	6 人	11 人	11 人

(9) 法人事業所利用者事故（掛川市への報告ケース）発生数 9 件

(10) サービスに係る苦情受付件数 22 件

(11) 法人本部所管委員会活動

- ① 広報・人材確保対策検討委員会
会議開催 年 7 回

主な活動実績

- ・ SNS 活用における求人方法の確立
(ホームページ更新・ブログ投稿の活性化)
- ・ 有効な求人媒体、方法の調査研究
(御前崎市リターン就職応援プロジェクト公開継続)
- ・ 法人内事業所職員への求人案内及び各種就職フェアへの参加企画
- ・ 広報誌「笑顔のわ」の編集、発行

②地域貢献事業検討委員会

会議開催 年 6 回

主な活動実績

- ・ 地域健康講話への職員動員
- ・ 掛川市社会福祉協議会「福祉なんでも相談会フードパントリー事業」への参画

③人材育成検討委員会

会議開催 年 6 回

主な活動実績

- ・ WEB 研修システムの活用促進案内と活用実態検証
- ・ 人材育成ツールとしての活用に向けた出張復命書様式の改訂
- ・ プリセプター制度モデル事業実施と総括及び 5 年度本実施に向けた準備
- ・ 新入職員採用時研修の企画実施

④事業監査委員会

会議開催 年 8 回

主な活動実績

- ・ 内部事業監査実施要綱の制定
- ・ 監査実施に向けた準備 (ガイドライン・監査対象事業別チェックリストの作成)
- ・ 事業監査担当者内部研修 (監査シミュレーション実施)
- ・ 委員による全事業所監査実施

令和4年度 特別養護老人ホームかけがわ苑 事業報告書

総括

新型コロナウイルス変異株による感染力が益々強くなったことで、令和4年度は12月、1月に2度のクラスターが発生しました。事業継続計画（BCP）に基づき速やかに緊急招集会議を開催し、感染拡大を阻止する措置を講じました。職員による日頃の感染意識やシミュレーション訓練が功を奏し、それぞれの部署で状況に応じた適切な感染対応を行うことが出来たため、ご利用者は重症化せず収束することが出来ました。

コロナ禍でもご家族との絆を保ち、楽しみのある日常生活を提供するため、対面面会や窓越し面会の継続と感染状況の動向を見ながら、期間を区切った対応ではありましたが、病院受診以外の外出も実施できました。また、夏祭り、敬老会、クリスマス会をはじめとして季節行事においても、感染対策や工夫を凝らし実施致しました。

サービスの質の向上に向けての取組みとしましては、厚労省に対し、科学的情報介護システム「LIFE」を用いて予定通りデータを提出し、「利用者の声・想い」ならびに「私の暮らしシート」から導いたニーズをもとに、食事提供やリクエスト企画を立案、実施することで生活機能の向上に努めました。また、福祉サービス第三者評価事業を受審したことにより、現状サービスの客観的評価や、組織全体で取り組むべく今後の改善課題を可視化することが出来ました。

地域貢献活動につきましては、昨年と同様に「福祉なんでも相談」の受付やコロナ禍での活動として、掛川社会福祉協議会を通じた食糧支援「フードバンク」の取り組みを継続実施致しました。

1. 利用者の状況について

ア－1) 利用者実績（在籍率：年間平均 98.7%）

定員 80 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ日数	2343	2468	2360	2454	2449	2385	2412	2386	2480	2467	2203	2389
在籍率	97.6	99.5	98.3	99.0	98.8	99.4	97.3	96.2	100	99.5	98.3	96.3

※小数点第2位以下切り上げ計上

ア－2) 入退所及び入退院状況（前年度）

新規入所者数	退所者数	入院実人数	延べ入院日数	延べ外泊日数	施設内看取り実績
21 人 (30 人)	19 人 (31 人)	12 人 (31 人)	216 日 (118 日)	0 日 (0 日)	11 件 (15 件)

※看取りは同意書を取り交した後に死亡した件数

ア－ 3) 新規入所申込者数 (前年度)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	9	5	3	7	4	3	6	4	4	14	9	10	83 (57)

ア－ 4) 要介護度の分布 (月初基準)

介護度	1	2	3	4	5	平均介護度
4月 (期首)	0	1	20	24	35	4.17
3月 (期末)	0	1	24	20	37	4.14
比較増減	0	0	4	△4	2	△0.03

ア－ 5) 保険者に対する事故報告該当件数

年間 6件 (前年度 11件)

内訳は、骨折事故 3件、受傷により縫合処置した事故 1件、

内出血・血腫等 2件となっております。

2. 家族等関係者及び地域との連携について

ア－ 1) 家族との連携 (前年度)

面会者延べ人数	1日平均面会者数
822人 (213人)	2.3人 (0.6人)

厚労省からの通達と静岡県の新型コロナウィルスの感染状況や医療ひっ迫状況等の国評価レベルの状況にて感染防止対策を講じ、クラスター発生期間を除き対面面会を実施致しました。また、感染状況を見ながら R4.4/29～R4.5/13、R4.11/1～R4.11/14 と期間を区切っては外出も再開出来ました。

ア－ 2) 地域等との連携 (前年度)

ボランティア 受入実人数	ボランティア 受入延べ人数	ボランティア 1日平均受入人数	新規ボランティア 実人数 (再掲)	実習生受入 延べ人数
3人 (0人)	3人・1団体 (0人・0団体)	0.008人 (0.00人)	0人0団体 (0人0団体)	130人 (22人)

ア－ 3) 優先入所検討委員会 3回開催 (7月26日・11月22日・3月20日)

令和5年3月31日現在、入所申込者 (待機者) は要介護3未満の申込者を含め128名となっております。

在宅での介護が困難な男性の入所希望者が増加傾向にあり、3月の優先入所判定会では男性優先順位名簿は女性優先順位名簿より多い結果となりました。

入所決定の案内時において、入所保留またはキャンセルをする申込者が多いことを考慮

し、優先順位上位者への連絡を早めに行い診療情報の作成依頼等、待機者リストの適正管理に努めました。また、退所後 1 週間での入所を目標に空床日数の短縮に努め、年間平均在籍率が 1.3%上回る結果となりました。

3. 相談援助部門

新型コロナウイルスの影響にて定着したオンライン面会、感染防止対策を講じながらの対面面会・窓越し面会・外出を実施し、不自由ながらもご家族との交流の場を提供することが出来ました。

また、昨年度同様に 1 年間を通じて利用者の写真撮影を積極的に行い、苑だよりの掲載、個々に写真をご家族にお渡しすることで利用者を身近に感じて頂けるよう役立てました。

また新型コロナウイルス感染の脅威下もあり、ボランティア活動は屋外活動を依頼しました。実習生の受入れにつきましては、学校の感染対策の協力を得ながら単位実習・高校生インターンシップを受け入れました。

入所相談については、新型コロナウイルス感染の観点から簡素化に努め、来苑された方の健康チェック実施、パーテーションやフェイスシールドを使用した説明を実施し、郵送やメールでの受け付けも行いました。

利用者の権利擁護の観点から成年後見人制度の申請が必要と判断した事例について関係機関等と連携して手続きを進めて参りました。また虐待防止対策においては「虐待の芽セルフチェックシート」を定期的実施することで、日々の業務の中で不適切ケアについての意識啓発が向上できるよう努めました。

4. 栄養管理部門

ご利用者個別の低栄養状態のリスクに応じたモニタリング期間での状態観察と、状態に応じて安全・安心な食事形態を多職種で連携し、検討、実施致しました。また、水分補給ゼリーの導入により、トロミ提供の業務削減と水分摂取率を高めることが出来ました。

サービスの質の向上と楽しみのある食事提供として、給食委託会社の食事内容にかけがわ苑独自で工夫を加え、施設生活においても少しでも変化を感じられるように調整を行いました。また、利用者の声・想いなどを活用し、ご利用者の要望に応じた嗜好を可能な限り献立に反映させ、好評を頂きました。毎月実施している手作りおやつも、季節や行事に合わせて季節感を味わえるよう提供致しました。

5. 介護・看護部門

昨年に引き続きコロナ禍ではあっても、その人らしい日常の暮らし、利用者の声や想いを一層大切にするため、「私の暮らしシート」「利用者の声・想い」に取組み、活用の定着が図られてきております。「私の暮らしシート」につきましては、サービス担当者会議にて、保証人へ向けて説明を行うことで活用を図っております。

褥瘡・拘縮防止ケアへの取り組みについては、共通するポジショニングの重要性に着眼し、計画書を作成し状態に即したケアの実践を行って参りました。褥瘡・拘縮発生に関する

る学習と適切な対処方法の確立、アウルクッションやエアーマット、ムートンシート等、褥瘡予防に特化した福祉用具の導入、給食室と連携し発生時の栄養補助食品の導入や食事内容の見直し、長期化した褥瘡への補助食品の変更を実施し発生予防と早期改善に努めました。

LIFE 導入と、褥瘡評価を統一し褥瘡ケア計画書の記入を継続するとともに、DESIGN-R での評価を行い早期褥瘡改善に努めました。

新型コロナウイルス感染症のクラスターが2度発症してしまいましたが、感染状況に応じ適正な感染対応とゾーニングを行い、重症者を出すことなく収束出来ました。しかしBCPにおいては見直しが必要なことが判明したため、早急な見直しを検討しています。

7. 行事余暇活動等の実施について

ア) 余暇活動参加実績

	実施回数	備考
季節活動等	4回	七夕、正月、節分、運動会
慰問	0回	コロナ禍により中止

※毎月の誕生会の実施（各フロア毎）

イ) 主要行事開催実績

	実施回数	備考
納涼縁日	1回	各フロア開催
敬老会	1回	各フロア開催
クリスマス会	1回	各フロア開催

8. 防災対策実施状況

- ・年間訓練実施回数（フロア） 11回
- ・総合防災訓練 2回

9. サービスの質の管理及び向上への取り組み状況

ア) 内部研修開催実績 年 8回

イ) 外部研修参加実績 年 99回（WEB研修受講含む）

ウ) 施設内委員会活動実績 (一部 介護保険法規定)

委員会名	会議開催	主な活動内容
(安全管理部門) 事故防止・身体拘束廃止・虐待防止委員会	11回	事故検証(再発防止策の実施状況等)、内部研修の開催、拘束適用の可否判断と廃止への意識啓発
感染褥瘡防止委員会	12回	新型コロナウイルス感染対策、感染・褥瘡予防の啓発、褥瘡予防ケア計画書の更新、除圧クッションの購入、各感染症マニュアルの作成、内部研修の開催、機能向上型エアマットの更新
サービス向上委員会	12回	運営指針の確認、利用者評価(アンケート)の実施、第三者評価受審手続き

10. 地域交流としての取り組み状況

内容	実施回数	主な活動内容
ふれあい広場	1回	事業所紹介
第5地区文化祭	0回	コロナ禍であり辞退する

令和4年度 かけがわ苑 短期入所生活介護事業所 事業報告書

総括

令和4年度のかげがわ苑短期入所生活介護事業所は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症への感染対策を講じながら安心してご利用できるようサービス提供を行って参りました。しかしながら、11月末にショート利用者より新型コロナの陽性が判明したことを境に感染が拡大し、11/30から12/23までの24日間にわたってショート利用者の受入れを中止致しました。その為、年間稼働率は82.6%となり昨年度よりも稼働率が低下、目標稼働率の90%を下回る結果となりました。

また、目標稼働率が下回った別の要因としては、定期的な継続利用者が入所系のサービスへ移行したケースが多かったこと、新規利用者が前年度と比較して少なかったことが考えられます。

そのような中でも、利用者・家族の思いに寄り添う対応を心掛け、長期の利用者のニーズへの対応や利用者の状態変化に柔軟に対応するために、緊急ショートの受け入れを積極的に行うなど、居宅介護支援事業所やサービス事業所とのより良い関係構築に努めて参りました。

1. 利用実績

アー1) 月間状況 ※平均利用者数は1日あたりの利用者数

定員7人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	6.1	6.1	5.5	6.1	6.5	6.3	6.3	6.4	3.6	5.7	6.2	6.5
利用実人数	23	20	20	21	21	24	23	21	11	21	20	24
延べ人数	183	190	164	189	201	188	195	191	51	178	173	203
平均介護度	2.4	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.6	2.5	3.1	2.8	2.7	2.7
稼働率(%)	87.2	87.6	78.1	87.1	92.7	89.6	89.9	91.0	23.5	82.1	88.3	93.6

※小数点第2位切り上げ計上

アー2) 年間状況(前年度)

利用者延べ人数	1日当たり 平均利用者数	新規契約者数	平均介護度	年間稼働率
2106人 (2135人)	6.1人 (5.9人)	21人 (29人)	2.5 (2.7)	82.5% (83.5%)

※小数点第2位切り上げ計上

アー3) 年間介護度別延べ人数(前年度)

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
422 人 (192 人)	426 人 (450 人)	1062 人 (1236 人)	173 人 (196 人)	23 人 (61 人)
230	△14	△174	△23	△38

アー 4) 年間性別割合 (前年度)

男性	女性
17.1% (14.0%)	82.9% (86.0%)

アー 5) 年間空床利用 (前年度)

特養空床数	空床利用数
396 床 (767 床)	16 床 (7 床)

※特養空床は退所・入院・外泊時に発生、外泊加算算定期間中を含む。

空床利用に関しては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、特養入所者への蔓延リスクを低減させるため、令和 3 年 1 月より多床棟の空床利用は中止し従来型個室のみの対応を継続しました。

アー 6) 年間新規契約者・利用中止者 (前年度)

新規契約者	利用中止者
23 人 (28 人)	12 人 (12 人)

イー 1) 保険者に対する事故報告件数 (医療機関受診を必要とする程度の事故)

年間 0 件 (前年度 1 件)

今年度は保険者に報告する事故事案はありませんでした。

2. 家族・関係機関との連携状況

- ・サービス担当者会議参加回数 9 回(更新のサービス担当者会議)

今年度も、新型コロナウイルス感染症発生予防措置として、ケアプラン更新時のサービス担当者会議は前年の 4 回と比較し担当者が集合しての開催は増加傾向にあります。開催に際しては、利用中のご本人の様子と支援状況がより詳細にご家族に伝達出来るように努めました。会議資料は利用者ケアに主として携わる介護職員が作成、介護職員等が出席出来ない場合は生活相談員が代理出席しました。

3. サービスの質の管理及び向上に向けての取組状況

- ・新型コロナウイルス感染症対策について

昨年度と同様に職員には正しい手洗い・消毒・マスクの着用、フェイスシールドの装着等の標準予防策を徹底し、感染対策に努めていましたがショート利用者よりコロナ陽性者が出現した以降、個室対応の当該フロアに蔓延してしまいました。この反省を踏まえ、感染褥瘡防止委員会と連携しながら利用者様には、新型コロナ感染症、インフルエンザの同時流行に備え施設からの依頼事項及び注意喚起情報を文書等で発信しました。

年間計画で予定していた当苑の三大大行事（納涼祭・敬老会・クリスマス会）やその他の季節行事については感染予防に配慮して実施、3月には、目の前で蒸した「あんまん」を提供するお楽しみ会を実施しました。

- ・療法レクリエーションの実施

療法レクリエーションは昨年の3月から本格的な実施を開始していましたが、職員の配置状況の変化に伴い安定した実施が出来ませんでした。

- ・介護計画書の見直しについて

介護計画の見直しについては新しい書式を作成し周知致しました。ケアマネジャーのケアプランに則った、モニタリング評価可能な書式に変更となっています。

令和4年度 かけがわ苑 通所介護事業所 事業報告書

総括

新型コロナウイルス感染症が収まらない中、利用者が安心してサービスを利用できるように感染対策に努めて参りました。体調不良状態で利用され、抗原検査にて陽性反応が判明した利用者もいましたが、水際で防止することができ、感染拡大には至りませんでした。

令和4年度は利用者の機能訓練の充実化を図るために新しい取組みとして、掛川東病院の理学療法士に指導をして頂きました。指導していただいたことを口腔体操やレクリエーションに取り入れ、利用者の身体維持向上に繋げて参りました。またLIFEの導入を図り、PDCAサイクルの推進と、職員一人一人の介護サービスの質の向上、利用者本位のサービスを実現できるように目指して参りました。

実績件数につきましては、包括支援センターや居宅介護支援事業所からのお試し・新規利用者の紹介をいただき、前年度より利用率がやや上昇致しました。

1. 利用者の状況について

目標に掲げていた介護給付利用者の一日当たりの平均利用者数 20 名につきましては、20.7 名の実績を上げ、目標達成することができました。また、総合事業対象者及び予防給付利用者を含めた全体の平均稼働率は 74.0%となり令和3年度より 3.0%上回りました。

ア - 1) 通所サービス提供実績

平日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (平均)
介護平均人員	16.3	20.9	22.0	22.0	18.6	21.7	22.5	20.2	21.5	20.4	21.4	21.1	20.7
利用実績(延回数)	342	459	483	461	427	477	472	445	474	408	427	486	446.8
平均介護度(予防含む)	1.9	1.8	1.9	1.9	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0	1.9	1.9
利用実績(予防人員)	6	7	7	6	5	4	3	3	2	3	3	6	4.5
利用実績(延回数)	39	47	48	37	36	34	25	22	15	16	24	48	32.6
利用率(予防含む)	60.5	76.7	80.5	79.1	67.1	77.5	79.0	70.8	74.1	70.1	75.2	77.4	74.0

*実施日数＝月曜日から金曜日。ただし、1月1日～1月3日を除く

*利用稼働率＝月定員合計に占める月利用延人数合計の割合

*小数点第2位切り上げ計上

ア - 2) 年度内状況 (前年度)

年度内新規利用者数	年度内契約解除者数	体験利用者数	キャンセル数
18件 (21件)	11件 (20件)	23件 (18件)	661件 (694件)

※体験利用のうち16名がサービス契約締結に至りました。

※キャンセルの主な内訳

自己都合 116件 体調不良 124件 受診・入院 150件
ショートステイ 28件 コロナ関連 240件 その他 20件

・利用者のコロナ発症でのキャンセル数は前年度より増加。

2. 家族・関係機関と連携状況

ア) 利用者、家族へ必要時お知らせ文書や依頼文書、行事のお知らせなどを配布し
家族とのコミュニケーションを密に行いました。

イ) ボランティア受け入れ実績

年間受け入れ延べ人数 個人 10件 団体 0件

※コロナ市中感染状況を確認し、個人で活動されている方の受け入れを行いました。

3. サービス提供状況

ア) 認知症加算の対象者（日常自立度Ⅲ以上）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	9	10	9	9	9	9	8	9	8	8	7	7
割合	22.5	25.0	20.9	20.4	20.0	20.0	18.6	20.0	19.5	20.0	17.5	17.0

※加算条件：利用者の総数のうち認知症日常自立度Ⅲの方の割合が平均で20%以上

イ) 個別機能訓練

機能訓練加算は算定していませんが、機能訓練指導員（看護師）を中心とした
機能訓練（マッサージ・口腔体操等）を実施しています。

4. 防災対策実施状況

年間訓練実施回数 10回
利用者避難誘導訓練 4回
訓練講話 2回
職員防災研修 4回

利用中の地震・火事・風水害に関連した防災訓練を実施しています。特養の総合防
災訓練の応援訓練にも参加致しました。

5. サービス管理及び向上に向けての取組状況

ア) 内部研修開催実績

年 7 回 開催

事故防止・身体拘束廃止・虐待廃止・新型コロナウイルス感染予防対策・サービス向上・防災についての研修を 2 ヶ月に 1 度開催し、職員の資質向上に努めました。

イ) 外部研修参加

年 2 回 参加

感染研修では新型コロナウイルスの情報を WEB で参加し、感染症防止への対策に役立てました。

ウ) 利用者・家族満足度アンケートの実施

年 1 回 実施

令和4年度 かけがわ苑 居宅介護支援事業所 事業報告書

総括

令和4年度の事業所運営においては、新型コロナウイルス感染症予防対策を継続し、利用者宅の訪問等実施しましたが、コロナに感染した職員も数名おり、再度自らの体調管理の徹底に努めながら業務に従事して参りました。

サービス担当者会議やリハビリ会議参加においては、社会情勢を確認しつつ、照会文書作成やオンライン等活用し、実施致しました。

ケアプラン作成につきましては、事務員配置による逡減制の緩和を適用して作成件数を伸ばす計画でありましたが、目標件数に実績が届かず9月より適用を廃止致しました。

職員の質の向上を図る取組みと致しましては、主任介護支援専門員を中心にケアプラン点検の実施や事例検討会などを行い、相互牽制体制を保ちながら各自が専門職としての能力の向上に努めるとともに、包括支援センターと連携し、積極的に困難事例にも対応して参りました。

1. 利用者の状況について

アー1) 居宅介護支援サービス提供実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
ケアプラン 作成目標数	190	190	190	190	190	179	179	179	179	179	179	179		
ケアプラン 作成実績数	165	165	173	175	173	174	176	175	174	175	177	173	2075	172.9
ケアマネ1人 当り作成数	34.4	34.4	36.1	36.5	36.1	36.3	36.7	36.5	36.3	36.5	36.9	36.1		36.1

※小数点第2位切り上げ

単位：人

年度内新規利用者数（前年度）	年度内契約解約者数（前年度）
59人（63人）	43人（47人）

※解約者の内訳 ①施設入所 22人 ②死亡 17人

③要支援状態への移行 0人 ④転居、事業所変更 4人

⑤その他 0人（サービス希望なし）

新規利用者につきましては、包括支援センターからの紹介が最も多かったものの、ご家族や他機関からの直接依頼も増えています。

アー 2) 利用者の状況

単位：人

介護度	1	2	3	4	5	3～5 の割合
4月（期首）	54	62	28	14	7	29.6%
3月（期末）	57	67	26	15	8	28.3%
比較増減	3	5	△2	1	1	

※当月利用述べ人員の1日当たりの平均とし、小数点第2位を切り上げる。

イー 1) 介護予防支援サービス提供実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
ケアプラン作成実績数	25	25	23	24	24	23	23	26	26	25	25	25	294	24.1
ケアマネ1人当り作成数	5.2	5.2	4.8	5.0	5.0	4.8	4.8	5.5	5.5	5.2	5.2	5.2		5.1

(総合事業対象者含む) ※小数点第2位切り上げ

イー 2)

単位：人

年度内新規利用者数（前年度）	年度内契約解除者数（前年度）
9人（3人）	8人（8人）

※解約者の内訳 死亡 0名 介護給付への移行 8名

2. 受託事業の実施状況

介護認定調査実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
調査実施件数	0	2	2	1	0	2	0	0	0	0	1	2	10

介護認定調査につきましては、認定期間延長により依頼件数が減っていますが、依頼があった調査はすべて実施しました。

3. サービスの質の管理及び向上に向けての取組状況

ア) 内部研修開催実績

年 10 回開催

職員会議及び定例会議の中で、外部研修に参加した職員による内部研修（勉強会）を行い、職員への周知を図ることで資質向上に努めました。

イ) 外部研修参加実績

年間 25 回参加

介護支援専門員更新研修と他各団体からの研修にはオンラインにて参加しています。今年度は介護支援専門員更新研修参加者が1名だったので、他職員が外部研修に参加する機会が増え、情報収集や他機関との連携を図ることができました。

ウ) 合同事例検討会

年2回

市役所にて例年3ヶ月に1度開催されていた事例検討会は、コロナ禍より開催方法が見直され、介護支援専門員連絡協議会研修部が年間計画を作成し、オンラインまたは集合型にて今年度は2回開催され、各2名ずつ参加しました。

エ) その他

- ・利用者アンケート 年1回実施。
- ・介護支援専門員実務者研修における見学実習1名受け入れ。

令和4年度 掛川市西部地域包括支援センター事業報告書

総括

2025年を目途に高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築が推進されています。令和4年度は実現のために、地域の課題の把握、社会資源の発掘に努めて参りました。

相談協力員懇話会では社会資源の見直しを行うために、地域の声を収集し、声をもとに社会福祉協議会との共有会議を開催致しました。今後の活動に繋がる西部圏域の地域課題を抽出しております。

また個別ケア会議36回開催や、見守りネットワーク会議に参加するなど地域や、多職種との連携、協働を図りながら問題解決に取り組んで参りました。

1. 総合相談支援

年間相談件数は **4,553** 件ありました。内訳としましては、介護保険サービスについての相談が多く **1,367** 件、続いて介護・日常生活に関することの相談が **1,307** 件でした。

総合相談件数は昨年度に比べ **108** 件の増加となりました。徐々にではありますが、来所の相談が伸びております。

<圏域内状況及び相談経路>

単位：件

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
高齢者数	6,318人	6,584人	6,820人	6,951人	7,048人	7,213人	7,303人
高齢化率	23.3%	24.2%	25.1%	25.5%	26.0%	26.7%	27.3%
職員人員	正規：3人 非正規：1人	正規：3人 非正規：1人	正規：4人 非正規：1人	正規：4人 非正規：1人	正規：4人 非正規：1人	正規：4人 非正規：1人	正規：4人 非正規：1人
来所	495	567	693	643	521	421	545
電話	3175	3336	4225	4224	2916	3096	3051
訪問	1787	1667	2239	1622	1218	928	957
合計	5457	5570	7157	6489	4655	4445	4553

<高齢者実態把握調査：新規把握者・追加再入力者・新規登録者>

単位：件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
17	24	22	18	42	27	23	26	28	28	35	38	328

新規相談内容につきましては、「介護保険サービス」「介護・日常生活に関すること」の相談が多数ありました。県外から親を転居させたい、癌末期による医療の相談も多く、施設や医療機関との連携を図りました。

2. 権利擁護業務

1) 成年後見制度の活用・促進

権利擁護業務に関する相談は、60件で、昨年に比べ77件減少している現状で、成年後見制度に繋げた事例はありませんでした。

2) 虐待事案への対応

8050問題、子供の引きこもり無収入、親の無年金など複合的な問題を抱えているケースが虐待事案となり、迅速に対応を致しました。関係機関と幾度も会議検討を行い終結を致しました。

◎市とのケース会議 4回実施

3) 困難事例への対応

生活困窮、複合的家族の事例については、ふくしあ行政、社協などと連携し対応に努めて参りました。

4) 消費者被害への対応

訪問販売等による消費者被害に対しては、被害の相談はありませんでした。

5) その他

権利擁護団体（弁護士・司法書士）との意見交換会に参加をし、抱えている事例についてのアドバイスを頂き、支援につなげることができました。

<権利擁護相談件数>

単位：件

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
虐待	73	68	68	55	17	22	31
権利	121	220	181	146	182	137	60
消費	18	2	8	18	0	0	0
合計	212	290	257	219	199	159	91

<高齢者見守りネットワーク推進事業に関する協定事業所との連携>

回数： 5回

3. 包括的・継続的ケアマネジメント業務

高齢者が地域で生活できるようケアマネジャーなど様々な職種と連携し、個々の高齢者の状況や変化に応じて包括的継続的にマネジメントを行いました。

1) 包括支援センターをより身近な存在に感じてもらうために、職員紹介や業務報告等を掲載した包括だより「ほっこり」を年2回発行し民生委員、サービス事業所、居宅介護支援事業所などに配布致しました。リレー方式で社会資源の紹介を掲載するために情報収集を行いネットワークを広げることに努めました。

2) 地域の介護支援専門員に対して、電話や来所によりケアプラン作成技法、区分変更等の相談を受け、助言を行ないました。新たな介護支援専門員にはプラン立案の要点などを書面にて伝えました。

3) 地域の介護支援専門員が抱える支援困難事例について、各種専門職種の職員や地域の関係者、関係機関と連携し、同行訪問や個別ケース会議を開催し解決に向けて後方支援を行ないました。

4. 介護予防ケアマネジメント

①介護予防給付について

<介護予防支援費請求件数>

単位数：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
直営	5	5	6	6	5	5	4	5	5	5	5	5	61	5.1
委託	70	67	68	69	64	66	69	67	67	64	62	63	796	66.0
合計	75	72	74	75	69	71	73	72	72	69	67	68	857	71.4

<利用者の状況>

単位数：人

	要支援1	要支援2	合計
直営	21	40	61
委託	259	537	796

②第1号介護予防支援事業について

<介護予防ケアマネジメント請求件数>

単位数：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
直営	24	26	25	26	27	26	26	25	22	23	24	25	299	24.9
委託	37	40	35	32	33	34	33	36	35	38	37	38	428	35.6
合計	61	66	60	58	60	60	59	61	57	61	61	63	727	60.5

<利用者の状況>

単位数：人

	事業対象者	要支援1	要支援2	合計
直営	294	0	5	299
委託	147	96	185	428

<介護保険改正に伴う総合事業導入後の直営・委託件数動向> 3月実績比較

	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	介護予防 ケアマネ ジメント	件数	合計	介護予防 ケアマネ ジメント	件数	合計	介護予防ケア マネジメント	件数	合計
直営	予防給付	9	41	予防給付	6	31	予防給付	5	30
	事業対象者	32		事業対象者	25		事業対象者	25	
委託	予防給付	62	100	予防給付	68	106	予防給付	63	101
	事業対象者	38		事業対象者	38		事業対象者	38	

5. その他

<個別地域ケア会議>

開催数： 36回（開催時期：随時）

内容：会議内容としては、同じケースを数回行うなど、多職種、他機関との連携を図り今後の支援について話し合いを行いました。

<地域ケア会議>

開催数： 10回 開催時期：（5～7月懇話会・7月・3月）

内容：懇話会では、民生委員とともに西部圏域の社会資源の情報共有を行いました。その他では民生委員が介入した事例の紹介を行いました。懇話会以外での地域ケア会議では、運転免許の返納、原谷地区見守りネットワークについて情報交換をし、支援間のネットワークの構築を図りました。

<相談協力員懇話会>

開催数： 8回（開催時期：5～7月）

内容：ふくしあ団体にも参加していただき、各団体の役割、介護保険、社会資源の情報共有を行いました。感染対策を行い、民生委員と顔の見える関係を築き、ケースについての意見交換を行いました。

<生活支援体制整備事業に関する取り組み>

◎掛川市地域支え合い推進協議会

開催数： 0回

◎生活支援コーディネーター（SC）との連携

開催数： 4回

ふくしあ社会福祉協議会 SC との共有会議を開催し、地域課題の共有を図り具体的な活動の洗い出しを行いました。

<ケアマネサロン活動>

開催数： 1 回

内 容： 西部圏域の居宅介護支援事業所と市外で委託している居宅介護支援事業所と少人数で開催し、癌末期の方の受け入れについてなどの情報交換を行いました。

<事業所連絡会>

開催数： 4回（全体会2回）

内 容： ZOOMにて市役所からの連絡事項と10月、1月には宅部会が開催され参加を致しました。

<事例検討会>

開催数： 2 回

内 容： 市内居宅介護支援事業所を5グループに分け、少人数で開催しました。

<介護支援専門員連絡協議会>

開催数： 4回

内 容： 地域連携部に所属し、サービス事業所とケアマネとの連携について、情報交換の企画を話し合いました。

<地域密着型サービス事業所の運営推進会議>

開催数： 0 回

内 容： 書面での報告のみ（家代の里グループホーム）

<健康教育等講話>

開催数： 7回

内 容： 北中学校、和田岡小学校学童、桜木小学校等で認知症、高齢者の接し方などの講話を行いました。

<地域包括支援センター専門職会議>

開催数： 16回（保健師：5回 社会福祉士：5回 主任ケアマネジャー：6回）

内 容： 専門職ごとの情報交換及び課題検討

<申請手続き>

地域包括支援センターは「身近な地域の窓口」として、申込者の意向を踏まえ、介護保険サービス及び福祉サービスが円滑に提供されるために必要な申請が行われるよう援助致しました。緊急通報装置の相談はありましたが、条件を満たすことができず申請には至りませんでした。

(件数)

住宅改修費支給申請書	0	生きがい活動支援申請書関連	11
緊急通報システム関連	.0	配食サービス申請書関連	13

<職員研修>

23回 WEB研修が主でしたが、専門職の質の向上のために研修に参加しました。

【認知症総合支援事業】

●総合相談

地域包括支援センターの相談件数 4,553 件のうち 277 件が認知症に関する相談でした。相談者の内訳は本人・家族からの相談が最も多く、医療機関（認知症疾患センター）は 7 件でした。

今年度は、認知症による免許返納、認知症状の悪化などの相談があり、関係機関と情報共有を図りながら対応して参りました。

●ケース会議

◎認知症初期集中支援チーム

実施件数： 0 回

内 容： 対象者はいませんでした。

●ネットワーク会議

◎認知症施策推進会議

開催数： 5 回（市事業の協力）

内 容： 認知症疾患センター心理士はじめ、県担当職員、2 市行政・認知症地域推進員と意見交換を積極的行いました。

◎キャラバンメイト連絡会（市事業への参加）

開催数： 0 回

内 容： 実働はありませんでした。

◎認知症多職種研修会（市事業の協力）

開催数： 1 回

内 容： 2 市行政、認知症地域推進員と共に「認知症多職種研修」担当として掛川市東病院主催の「多職種連携会さてつ」活用した研修企画・資料作り・講師を担いました。

●広報啓発活動

◎「認知症」の支援体制の普及啓発講話

開催数： 0 回

内 容： 認知症ケアパスなどの周知活動は行ったが講話の開催はありませんでした。

◎認知症の理解のための普及啓発「認知症サポーター養成講座」

開催数： 3 回

内 容： 和田岡小学児童、桜木小学校、北中に向けて、講座を実施しました。

◎認知症カフェ（市事業への協力）

実施件数： 5 回

内 容： 認知症家族の介護負担軽減を図る活動

令和4年度 養護老人ホーム掛川市ききょう荘事業報告書

総括

令和4年度は新型コロナウイルスが猛威を振るい、感染が急拡大した影響により、ききょう荘ではクラスターが発生し、日常生活が一変しました。クラスター終息後も常に感染の不安を抱きながら自粛生活を続けて参りました。面会や外出の制限、行事クラブ活動の縮小など、人との交流や活動量の減少により、利用者の身体面精神面に悪影響が及ぼされたのではないかと認識しております。その理由の一つとして、一年間に13名の利用者が退所しております。退所理由は様々ですが、身体機能の低下が一番の要因であると考えます。様々な制約がある中、職員は衛生管理に努め試行錯誤しながら一年を通じて利用者の生活支援に取り組んで参りました。

経営面においては、令和4年4月より株式会社ティー・エフ・ピーによる給食委託業務が開始されました。近年、人件費や原材料費の高騰により給食委託コストが上昇していました。その為、食事の質を維持しながらも委託管理費の適正を図る必要がありました。従来の現地調理から、食事を提供するタイミングで最終加熱する調理法を採用しました。このことにより作業手順が効率化され、品質も問題なく、従来と比べ管理費も安価になり、給食コストの削減を図ることができました。

一方、ウクライナ情勢の影響によるエネルギー・資源価格の高騰、高止まりによる電力料金の上昇により水道光熱費が増大しました。

職員の処遇改善に関しましては、令和4年5月に掛川市へ給与改善の財源確保に向けて措置費の引き上げを要請しました。その結果、10月に支援員処遇改善加算が新たに新設されました。

サービスの質の向上に関しましては、10月に開催された静岡県老人福祉施設協議会が主催する高齢者福祉研究大会において、ききょう荘では初めてとなりますが、生活相談員が研究事例を発表しました。

建物修繕に関しましては、共用部及び廊下の塗装工事、畳の表替えを実施し、生活環境の改善を図りました。

令和5年1月には静岡県の指導監査が実施されました。結果として改善指導事項はありませんでしたが、助言指導事項として「宿直者の健康診断は6ヶ月以内毎に1回実施すること」という助言を受けております。

なお、各事業の取組み状況は以下の通りです。

1. 相談援助

①入退所支援

- ・入退所時における心身状態や経済状況における支援の困難さ、緊急時における対応力が求められるケースについては、多職種連携を意識して処遇会議などを活用して随時検討して参りました。

- ・地域包括支援センターからの入所相談には随時対応して参りました。

②個別処遇計画におけるマネジメントの確立

- ・利用者の個別性を重視したアセスメントとモニタリングを実施しました。年2回のケース会議を実施することで各専門職間との情報共有を図って参りました。またケース会議の内容については各保証人へ電話報告を行いました。
- ・ケアプランと個別処遇計画の連動性や整合性を高めるため、サービス担当者会議へ生活相談員が出席しました。

③ネットワーク構築

- ・「掛川西高校探究活動」「掛川市立小中学校教員研修」「福祉なんでも相談」など積極的に各関係機関との関りを持ちました。また新たな試みとして、掛川市役所長寿推進課、小笠ホーム、ききょう荘の三者で市内養護連絡会を開催し、運営に係る情報共有を図りました。

2. 生活支援

①日常生活の充実

- ・ケース会議を実施し長期と短期の目標評価を行い日常の支援に反映させました。
- ・グループ行事については、年間計画に基づき実施しました。新型コロナウイルス感染対策として外食を伴わないドライブを主体としました。また買い物ツアーは少人数ながら個別に購入希望がある方を引率し、ご自分で商品を選ぶ機会を設けました。
- ・10月よりグラウンドを使いラジオ体操と歩行運動を再開しました。気候の良い日はできる限り実施し、屋外で運動する機会を少しでも多く取り入れました。

②利用者本位と自立支援への取組み

- ・緊急を要する案件については、その都度職種間で話し合い対応しました。
- ・毎日の日課として、居室の清掃時間を設けたことで「時間に合わせて活動する」「役割を持つ」といった意識を形成し習慣化することができました。
- ・利用者の能力に応じて、清掃や加湿器の水替え当番、屋内外の清掃・草取りなど、理解と協力を得ながら、分担作業を行いました。

3. 健康管理

①フレイル対策

- ・健康長寿の延伸を図る取り組みとして、グラウンドでの体操や歩行運動をできる限り行いました。
- ・多くの利用者に体力低下が見られており、コロナ禍における運動不足が原因と思われます。少しでも元の体力に戻れるような運動などを取り入れ、健康教室ではいかにフレイル対策が大切であるか説明を行いました。

②口腔機能の維持向上

- ・「オーラルフレイル」対策として、歯科検診の結果で要治療となった利用者の受診計画を作成しました。

- ・口腔ケアの大切さ、口の周りの筋肉を鍛える「パタカラ体操」を利用者と共に毎日取り組んで参りました。

③認知機能の低下予防

- ・「ヒアリングフレイル」対策として難聴の早期発見と治療に努めました。一例として、自覚症状にて受診すると、耳垢による原因で難聴となっていることがわかりました。

④感染症対策

- ・感染食中毒防止委員会が中心となり、感染対策に努めて参りました。
- ・発熱や呼吸器症状がある場合には感染対応を行い、抗原検査の実施、必要時には医療機関へすみやかに受診しました。
- ・2度クラスターが発生し、いかに感染防止への初動対応が重要であるか痛感しました。今後は反省を活かし、初動対応を職員間で共有しクラスター防止に取り組みます。

⑤利用者の状態観察

- ・令和5年1月から3月にかけて、体調を崩す利用者が続きました。「何かが違う」という状態の異変にどう気づき、どう対応するのか、利用者からの「声なきサイン」に気づけるよう全職員が医療知識を深めること、救命救急のスキルを身に付けておくことが課題として残りました。

4. 食生活・栄養管理

①利用者の多様性や今後を見据えた食事提供

- ・令和4年度より、給食委託業者を「株式会社ティー・エフ・ピー」に変更しました。調理方法の変更、クラスターの発生、退所増等により課題多き立ち上げとなりましたが、施設の意向や利用者の状況を共有するなど、お互いにコミュニケーションをすることにより、安定した食事提供ができました。また、年度後半には長年の課題であった「介護食（ソフト食・ゼリー食）」の提供を開始しました。嚥下困難な方にも安心して召し上がることができる食事環境を整えた事は大きな成果につながりました。主食の選択食については、希望の聞き取りを行ったため、次年度の課題として取り組みを継続して参ります。

②健康寿命の延伸

- ・委託業者こだわりの食材や、食材の持つ効果等を利用者へ発信し、食事や食材に興味を持ち、喫食量の増加に繋がるよう努めました。その他、利用者個々の体重や血液検査、食事摂取状況、持病の経過等をアセスメントし、必要に応じたアプローチ方法を多職種で検討しながら、健康寿命を延ばすことができるよう支援しました。

③フレイル対策

- ・健康教室では前回のフレイル予防講話の続編として「オーラルフレイル予防」講話を行い、「口腔環境を整えること」「口腔機能を維持すること」「口から食べる大切さ」を伝えました。約2年にわたりフレイル予防について発信を続けているため、利用者がフレイル予防を意識し自発的に運動する姿が見られるようになり、意識定着の効果を実感することができました。また、6月にはサロン「方の橋おしゃべり会」か

らの依頼を受け、「バランスよく食べフレイル予防」をテーマとする講話を行いました。

④安全衛生

- ・委託業者の衛生管理部と連携し、新たな従事者向けに衛生に関する指導を行いました。
- ・11月に厨房内大型エアコンの計画的入れ替えを実施し、厨房内の適正温度を保持し、食中毒を予防する環境を整えました。

5. 災害対策

①災害時に備えた防災訓練の実施

- ・年間を通してクラスターや緊急対応等で予定されていた日程で訓練が実施出来なかった場合も別日を設けて訓練を重ねました。総合防災訓練では掛川中央消防署の隊員との実践的な訓練を行うことができました。

②災害に備えた職員研修の実施

- ・隔月で行った防災教育では動画を使って災害を認識することや、実際に備えられている備品や場所などを全員で再確認することができました。

③食材、備品の災害備蓄

- ・委託先が変更になり、入れ替え備蓄の活用方法が課題でしたが、フードバンクを活用することで有効的に消費することが出来ました。防災備蓄倉庫の修繕及び立て替えについては次年度の課題としています。

6. 設備・環境整備

①省エネ・低炭素化の取組み

- ・温水暖房設備に関しては従来の使用方法を改め、ボイラーの使用時間を必要最低限に止め、余熱を活かすことで節約に努めました。

②修繕と設備更新

- ・屋外避難経路整備第2期工事实施（7月）
- ・グラウンド駐車スペース砂利撒き（2月）

③掛川市年次計画による施設改善

- ・内装塗装工事（10月）
- ・畳み張り替え（11月）
- ・厨房エアコン入れ替え（11月）
- ・二槽シンク入れ替え（11月）

7. 統計資料等

①【年間利用者（在籍者）数】

数/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
月初利用者数	42	42	41	39	39	37	36	36	36	36	35	31	37.5
月初障害者加算人数	27	27	27	25	25	25	25	25	25	25	25	23	25.3

②【年間入退所者数】

(令和5年3月31日現在)

区分	入所	退所	現員
男性	1名	6名	21名
女性	0名	7名	9名
計	1名	13名	30名

③【年齢別構成】

(令和5年3月31日在)

区分	64歳以下	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	計
男性	0名	4名	14名	3名	0名	21名
女性	0名	1名	3名	5名	0名	9名
計	0名	5名	17名	8名	0名	30名

男性平均年齢…74.6歳 女性平均年齢…78.1歳 全体平均年齢…75.8歳

④【在所期間別】

(令和5年3月31日現在)

区分	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	計
男性	1名	3名	8名	6名	3名	21名
女性	0名	3名	4名	0名	2名	9名
計	1名	6名	12名	6名	5名	30名

男性平均期間…5.3年 女性平均期間…5.3年 全体平均期間…5.3年

⑤【要介護認定状況】

(令和5年3月31日現在)

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	計
男性	1人	0人	2人	1人	1人	5人
女性	0人	1人	1人	0人	1人	3人
計	1人	1人	3人	1人	2人	8人

⑥【日常生活動作等の状況】

(令和5年3月31日現在)

項目	介助不要	一部介助	全介助	計
食事	25名	3名	0名	28名
排泄	22名	6名	0名	28名
入浴	21名	7名	0名	28名
体位	28名	0名	0名	28名
着脱	20名	8名	0名	28名
移動	27名	1名	0名	28名

※入院者2名除く

⑦【ボランティア活動の状況】 ※コロナ禍のため、受け入れ中止。

区分/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
保/小中高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般男子	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
一般女子	0	0	8	1	0	3	0	7	3	0	0	0	22
人数計	0	0	9	1	0	4	0	7	3	0	0	0	24
件数	0	0	1	1	0	1	0	1	1	0	0	0	5

⑧【面会者調べ】 ※リモート面会含む。(面会日数…同一日は重複して計上しない)

数/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
面会日数(日)	0	0	0	0	0	0	12	6	9	7	10	4	48
面会者数(名)	0	0	0	0	0	0	13	7	9	10	11	5	55

⑨【外出・外泊調べ】

(受診、デイサービス、事務手続きを除く)

数/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
外出者数	0	1	1	0	0	1	2	5	6	5	4	6	31
外泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泊日数(日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑩【事故等発生状況】

数/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	1	1	4	5	1	0	2	2	4	3	1	1	25
市報告	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	4

市報告…医療機関へ受診した事故(再掲)

⑩【苦情相談】

数/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	0	1	0	2	0	1	2	0	0	1	1	0	8

8. 医療関係調書

【囑託医】 岡田医院 岡田裕美子先生

【診察日】 毎月2回 木曜日

①入院状況

中東遠総合医療センター	7名	川口会病院	4名
磐田病院	0名	小笠病院	0名

②外来受診状況

《中東遠総合医療センター》

眼科	8名	整形外科	8名	泌尿器科	1名
外科	13名	呼吸器科	1名	消化器内科	13名
循環器科	1名	耳鼻科	9名	認知症	0名
脳神経内科	4名	脳外科	0名	皮膚科	0名
CT・MRI	5名	検査	0名		

《その他の医療機関》

岡田医院	22名	増田内科循環器科	11名	葛ヶ丘歯科医院	23名
とやま眼科	16名	掛川海谷眼科	16名	あつみクリニック	56名
高松クリニック	9名	川口会病院	84名	くにお皮膚科	4名
小笠病院	22名	佐野医院	3名	おの耳鼻科	11名
うめず脳神経外科	1名	聖隷浜松病院	6名		
訪問看護(川口会)	11名	訪問看護(小笠病院)	3名		

③定期検診

- ・ 9月 聴打診・血圧測定・尿検査・血液検査・身長・体重
- ・ 3月 聴打診・血圧測定・尿検査・血液検査・心電図・胸部レントゲン・身長・体重

④インフルエンザ予防接種

・10月実施

⑤新型コロナウイルスワクチン接種

- ・4回目…令和4年7月
- ・5回目…令和4年12月

9. 防災訓練実施状況

月日	種類	訓練内容	参加者
4月25日	避難誘導訓練 防災教育	・火災想定訓練 ・消防用設備説明、発電機と投光器	職員 9名 利用者 30名
5月27日	避難誘導訓練	・地震想定訓練	職員 7名 利用者 27名
6月27日	避難誘導訓練 防災教育	・土砂災害想定訓練 ・消火器と三角バケツ	職員 8名 利用者 29名
8月29日	避難誘導訓練 防災教育	・地震想定訓練 ・消火器の場所と把握	職員 8名 利用者 30名
9月26日	総合防災訓練 (日中想定)	・初期消火、避難誘導、情報伝達 ※7月開催予定分	職員 8名 利用者 29名
10月24日	避難誘導訓練 防災教育	・土砂災害想定訓練 ・水害の動画鑑賞と防災クイズ	職員 10名 利用者 28名
11月11日	避難誘導訓練	・火災想定訓練 ※9月開催予定分	職員 8名 利用者 34名
11月28日	総合防災訓練 (夜間想定)	・初期消火、避難誘導、情報伝達	職員 10名 利用者 30名 消防隊員 10名
12月26日	避難誘導訓練 防災教育	・地震想定訓練 ・消火器の位置と把握	職員 7名 利用者 28名
1月23日	避難誘導訓練	・火災想定訓練	職員 8名 利用者 30名
3月22日	避難誘導訓練 防災教育	・土砂災害想定 ・非常持ち出しの準備について ※2月開催予定分	職員 10名 利用者 25名
3月27日	停電時対応訓練	・地震発生による停電時対応訓練	職員 7名